



# ガンバレ!先生 応援サプリ



今回は、クラス担任ができる「キャリア教育」がテーマ。

諸富先生の考えるキャリア教育とは、生徒の「自分作り、人生作り」のお手伝い。

授業やホームルームなど、さまざまな場面でのキャリア教育の提案です。

取材・文／清水由佳 撮影／関本陽介 イラスト／藤井昌子

## 処方箋③

### キャリア教育で生徒に5つの力を!

たくさんの出会いと  
刺激になる機会を!

クラス担任の先生方が、生徒のキャリア教育として意識してほしい5つの力を取り上げてみましょう。

まずは「出会いに生き方を学ぶ力」。

「こういう人になりたい!」という人と

出会うことが、キャリア教育の基本。か

つて心を動かされた教師との出会いが

あって教員になった方も多いと思いま

す。そこで、さまざまな分野の社会人

をゲストティーチャーとして招いたり、

生徒が会いたい人に直接アポイントメン

トを取り話を聞きに行く修学旅行を

実施したり。普段の授業でも教材に関

連するいろいろな人の人生を語り、間

接的にでも「こういう人物がいたんだ

」「こんな人生は素晴らしいなあ」と思つ

てもうえるような出会いの種をたくさん仕掛けていきましょう。

2つ目は、「人生プランニング力」。普

段大学生と接していると、将来のこと

を真剣に考えたり、語り合ったりした

経験がない若者が多いように感じま

す。LHRなどで「10年後 20年後の自

分」を語り合い、仲間を見つけ、日常的に将来を語り合う習慣をつけさせてい

る

げください。誰か偉い人の話を聞くのではなく、習慣的に生徒同士が語り合い、刺激し合うのが、キャリア教育にはとても有効です。

3つ目は、「人とかかわる力」。特に男子生徒は、何を言つても「ヤフニヤ。「相手の言うことをしつかり聞き、考えをきちんと発言する」という基本の「ミニミニケーション力に欠ける生徒が多いようです。企業の人からも、「専門の知識よりも、「ミニミニケーション力を鍛えて送り出してください」と、本当によく言われます。その原因の一つは、眞面目に「コツコツ勉強することだけを重視して、プレゼンテーション能力を鍛えてこなかつたから。普段の授業でも、グループディスカッションなど、「語る場面」「聞く場面」をたくさん作ってください。同時に、先生自身の語る能力、聞く能力も重要。例えば結婚式のスピーチなどお金を払ってでもやつて(笑)、スピーチ力を高めてください。上手な人の話を聞いて育つと、生徒の話す力も上達します。

4つ目は、「達成する力」。最近の子どもたちは、すぐに物事をあきらめます。でも、どんな仕事にも大変なことは必ずある。そこを乗り越えていくためにも、何かを達成した喜びを体験していることが重要です。文化祭や体育祭、ク

ラスの行事で、みんなで企画し、協力して「一つの」と達成する喜びを実感させること。これはプロジェクトチームを作つて仕事を成し遂げたときの喜びに共通する体験です。

まずは「一人前の大人」として接することからスタート!

んだ」と感じられるようになるでしょう。



諸富祥彦先生 (<http://morotomi.net/>)

もろとも・よしひこ●明治大学文学部教授、臨床心理士、教育学博士。1963年福岡県生まれ。筑波大学人間学類・同大学院博士課程修了。千葉大学教育学部助教授を経て、明治大学文学部教授に。全国の悩める教師のためのセルフヘルピングやネットワーキングを支援する「教師を支える会」代表。時代の精神(ニヒリズム)と闘うカウンセラー。『「7つの力」を育てるキャリア教育』など、教師を応援する著書多数。